大空（生徒・保護者向け）３１号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校　校長通信

令和3年3月19日（金）

自分だけの白いねこを探しに（附属中卒業式式辞）

□本日の概要

○卒業式は、今まで自分を支えてくれた人々に感謝し、今度は自分が恩返しをする役割であることを自覚する日であり、皆さんにできる恩返しとは、皆さんが輝いた、幸せな生き方をすることである。

○幸せとは、主体的に愛する対象を見つけ、全力でその対象を愛することであり、愛するとは、他者のために全力で生きることである。

○人生は、じぶんだけのかけがえのないものを見つける旅である。試練を恐れず、主体的にチャレンジしてほしい。

一雨ごとに春の趣が深まり、花壇のパンジーが春風にゆれる本日、宮崎西高校ＰＴＡ会長　請関八芳様、附属中学校ＰＴＡ会長、田迫昭彦様のご臨席を賜り、ここに第１２回卒業式を挙行できますことは、私たち教職員一同、誠に喜びに堪えないところであり、厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様におかれましても、まだまだこれから高校生活が控えているとはいえ、お子様の中学校卒業を迎え、一安心されたのではないでしょうか。子ども達が今日の日を迎えられましたのも、ひとえに保護者の皆様のご理解やご支援の賜であり、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん、皆さんは本日、中学校を卒業しますが、すぐに高校という、次のステージを迎えます。だからといって、中学校は単なる通過点ではありません。皆さんが、このように、「卒業式」という節目を刻むのは、今日という日が形式的な式典ではないからです。卒業式は、今まで自分を支えてくれた人々に感謝すると共に、今度は、自分が恩返しをする役割であることを自覚する、大切な日です。今日の意義を理解し、少し大人の意識を持って、また、明日から、新たな一歩を踏み出して欲しいと思います。

それでは、皆さんにできる恩返しとは何でしょうか。それは、皆さんが輝いた生き方をすることです。皆さんが、主体的に生きて、自分の人生は素晴らしい人生だった、幸せだった、そう思える生き方をすることでしょう。

それでは、輝いた生き方、幸せな人生とは何でしょうか。一生懸命勉強して、成績がいいことでしょうか。あるいは、難関大に合格することでしょうか。お金持ちになることでしょうか。長生きをすることでしょうか。もちろん、どれも、それぞれ価値のあることではありますが、それだけでは、輝いた生き方、幸せな生き方とは言い切れないのではないでしょうか。

あるお話を皆さんに紹介します。

２０１０年に亡くなった絵本作家、佐野洋子さんの作品に「１００万回生きたねこ」という絵本があります。皆さんも、きっとどこかで読んだことがあるでしょう。

こんなお話です。

１００万年も　しなない　ねこが　いました。
１００万回も　しんで、１００万回も　生きたのです。
りっぱな　とらねこでした。
１００万人の　人が、そのねこを　かわいがり、１００万人の人が、そのねこが　しんだとき　なきました。
ねこは、１回も　なきませんでした。
ねこはいろんな人の飼いねこでした。あるときは、王様のねこ、船乗りのねこ、サーカスの手品使いのねこ、泥棒のねこ、ひとりぼっちのおばあさんのねこ、小さな女の子に飼われていたこともありました。どの飼い主も、一生懸命ねこを愛しました。でも、ねこは、どの飼い主も大嫌いでした。
あるとき、ねこは、だれのものでもない、のらねこになりました。ねこは、はじめて、自分のねこになりました。ねこは　自分が　だいすきでした。
めすねこたちは、ねこのおよめさんになりたがりました。でも、ねこは　自分に言い寄る　どのねこも　好きになりませんでした。
ところが、たった１ぴき、１００万回生きたねこに　見むきも　しない、白い　うつくしい　ねこが　いました。
「おれは１００万回も　しんだんだぜ！」と、ねこが自慢しても、宙返りをして見せても、白いねこは「そう。」と言ったきりで見むきもしません。
ねこは、「そばに　いても　いいかい」と、素直に白いねこにたずねます。すると、白いねこは、「ええ」と　ねこを受け入れてくれました。ねこは白いねこ

の　そばに、いつまでも　いました。
　白いねこは、かわいい　子ねこを　たくさん　うみました。ねこは、白いねこと　たくさんの　子ねこを、自分より　好きになっていました。
　やがて、子ねこたちは大きくなって、それぞれりっぱなのらねこになりました。ねこは満足でした。その頃、白いねこは少しおばあさんになっていましたが、ねこは、白いねこと　いっしょに、いつまでも　生きていたいと　思いました
　ある日、白いねこは　ねこの　となりで、しずかに　うごかなく　なっていました。
　ねこは　はじめて　なきました。夜になって、朝になって、また　夜になって　朝になって、ねこは１００万回も泣きました
　朝になって、夜になって、ある日の　お昼に　ねこは　なきやみました
　ねこは　白いねこの　となりで、しずかに　うごかなくなりました
　ねこは　もう、けっして　生き返りませんでした。

　このお話は、絵本という形をとっていますが、内容は、多くのメッセージや、解釈の余地があり、むしろ大人向けの本といっても良いでしょう。
　１００万回の生死を繰り返していたときのねこは幸せだったのでしょうか。そうではありません。ねこは、様々な人から愛されていますが、ねこ自身はどの飼い主も、つまり他者を愛していません。どんなに時間や経験を重ねようと、飼い主に愛されようと、ねこにとって周囲の人は、通り過ぎる風のような存在でしかありません。ねこが好きなのは自分だけなのです。
　そんなねこが変化したのは、白いねこと出会ったからです。ねこは素直に、白いねこや、自分の子どもたちを愛するようになります。白いねこが年老いて死に、ねこは後を追うようにこの世を去りますが、ねこはどうして今度は生き返らなかったのでしょうか。
　白いねこは、ねこが初めて、主体的に愛した存在でした。ねこにとって、はじめての他者に対する愛でした。ねこは、白いねこや子ども達を愛し、子ども達を一生懸命育てました。ねこは、ここで、自分のためではなく、誰かのために生きることの意味を知ったのだと思います。他者のために生きることを通じて、ねこは初めて、本当の愛や、命の意味を知ることができたのでしょう。幸せとは１００万回生きることではなく、たった１回でもいい、わずかの瞬間でも、全力で他者を愛すること、すなわち、自分が主体的になって愛し求める他者を見つけ、その他者のために全力で生きることなのではないでしょうか。
　白いねことは、いわゆる「好きな人」のことだけを意味しているのはありません。命をかけて、求め、出会うべきものの象徴だと私は思います。これは、皆さんにとっては、学問であり、生涯をかける仕事であり、家族や友人であり、また、これから出会う多くの人々なども意味しています。これから、皆さんが、自分の力で探さなければならない、価値あるものの象徴が、白いねこなのです。
　人生の意味とは、自分が主体となって価値あるものを探し、全力でその対象を愛することです。
　主体的ということは、利己的という意味ではありません。なぜなら、愛とは、他者のために生きるということだからです。本当の愛とは、他者のために自分の命を捧げるということだからです。
　動物の親は、自分の子どもを守るために、時には自分の身を呈して猛獣に立ち向かいます。ここに、愛の原点があります。人生の意味とは、自分が主体となって、自分の全てをかける価値のある、自分だけの白いねこを探しにいくことではないかと私は思うのです。
　皆さんは、まだ、自分だけの白いねこに出会っていません。いや、ひょっとしたら、すでに出会っているのに、気づいていないだけかもしれません。恐らく、皆さんは、自分が求めている何かが、この世の中に確かに存在していることに、漠然と気づいているのではないでしょうか。それは、今は漠然としていますが、確かに存在している。しかし、それは与えられるものではないのです。その何かに出会うためには、皆さんは主体的にチャレンジしなければならないのです。
　人生は、自分の命をかけるだけの価値がある、何かを見つけるための旅です。かけがえのない何かに出会えたとき、人生は輝きます。皆さんは、ぜひ、自分だけの白いねこを見つけてください。自分だけの、かけがえのない大切なものを見つけて下さい。それは、簡単ではありません。人生において価値あるものに出会うためには、必ず努力が必要です。時間をかけ、汗と涙を流し、初めて価値あるものに出会えます。皆さんは、どんな困難に出会おうとも、決してくじけないでください。試練が人間の力を高めます。試練を恐れず、白いねこを探す旅に出かけてください。
　しかし、もし、旅の途中で、何か困ったり、苦しくなったりした時は、また中学校の先生の所に相談にきてください。母校というものは、同じ発音である母港、すなわち船が休む港と同じ存在です。大海原へのチャレンジを続けながら、時には体を休め、補給をし、そして、再び大海原へこぎ出すエネルギーを蓄えるために港はあります。港が、いつも変わらず、いつでも船を迎え入れるように、附属中学校の先生方も、いつでも君たちが立ち寄るのを待っています。中高一貫校の良さは、高校生になっても、中学校の先生方が今までと同じように皆さんに接することができることです。高校生になった皆さんに、頑張っているね、一段と成長したねと、声を掛ける時が来ることを期待して、私の式辞といたします。